

NPO 法人がんと共に生きる会 2019 年度 公開講座 in 大阪

『手をつなぐ。伝えきること、わかりあうこと。』

～がん患者と医療者のより良いコミュニケーションをめざして』

開催報告書

日時：2019年3月21日 13時～16時30分

場所：大阪国際がんセンター大講堂（〒541-8567 大阪府大阪市中央区大手前3丁目1-6 9）

主催：NPO 法人がんと共に生きる会

対象：がん患者・家族・医療者など広く一般

がんと診断された患者や家族は、さまざまな不安に直面する。専門用語の多い病気や治療の説明に、「聞きたいことが聞けなかった」と戸惑う人も少なくない。薬の副作用は？ 費用は？ 悩みごとはいつ、だれに相談すればいいのか？ うまく意思疎通を図るにはどうすればいいのか？ そんな不安を少しでも解消してもらうことを趣旨に、患者と医療者とのよりよいコミュニケーションをテーマにした公開講座を開催し、約 130 名が参加した。

<講演の部>

◆ 『「はなす」ことで自分らしく医療とかかわる』

大阪国際がんセンター

がん相談支援センター副センター長 池山晴人 氏



◆ 『がん治療～一人の外科医の思い』

奈良県西和医療センター

消化器がん低侵襲治療センター長 辰巳満俊 氏

(現：奈良県立医科大学 医療安全推進室長)



◆ 『がん患者・家族の納得いく療養のための

医療者との関わり ～遺族の想いを通して』

大阪南医療センター

患者支援室長・がん相談支援室長補佐 萬谷和広 氏



- ◆ 『医療者とのより良い
コミュニケーションのエッセンス』
大阪国際がんセンター
看護部がん看護専門看護師 北島惇子 氏



- ◆ 『安心して治療を受けていただくために
「薬剤師」の様々な場面での関わり』
大阪国際がんセンター
薬局 副薬局長 がん専門薬剤師 金銅葉子 氏



「医師の説明が理解できなかった」「納得できないまま治療が進んでしまった」…。当会にも、がん患者や家族から医療者とのコミュニケーションに関する相談が多く寄せられている。今回の公開講座では、5名の医師や看護師、薬剤師、がんに関する相談支援を行うがん相談支援センターの担当者を講師に招き、それぞれの立場から、医療者と患者、家族とのコミュニケーションをテーマに上記の講演をして頂いた。

また、講演の後には来場者の様々な質疑への講師の応答や場内ディスカッションの場を設け、次のように活発な議論が繰り広げられた。

<意見交換、ディスカッションの部 より>

『納得できる治療を受けるには?』

「説明のときはメモをとったり、納得いくまで質問して、自分の体がどうなっているかを理解して、そのうえで、どう暮らすか? どう生きたいか? を自分のことばで伝えることが大切」と強調。「安易に『先生、お任せします』とは言わないで、厳しいけれど自分で考えてほしい。そして分からないことや悩みを伝えてほしい。医療者は決して結論だけを押しつけることはなく、必ず聞いてくれる」
(奈良県立医科大学 医療安全推進室長 辰巳満俊医師)



『自分で悩みを抱えてしまう患者へのアドバイスを』

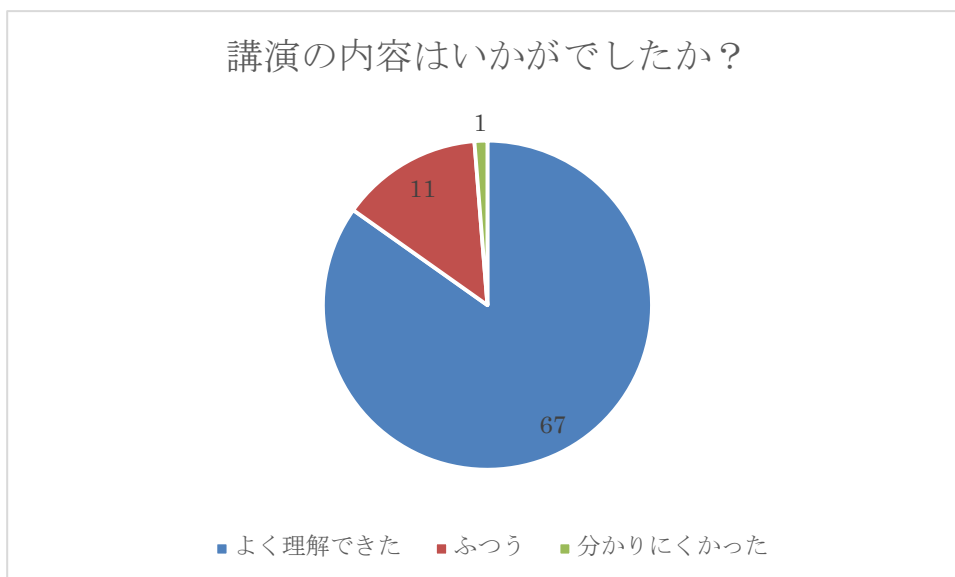
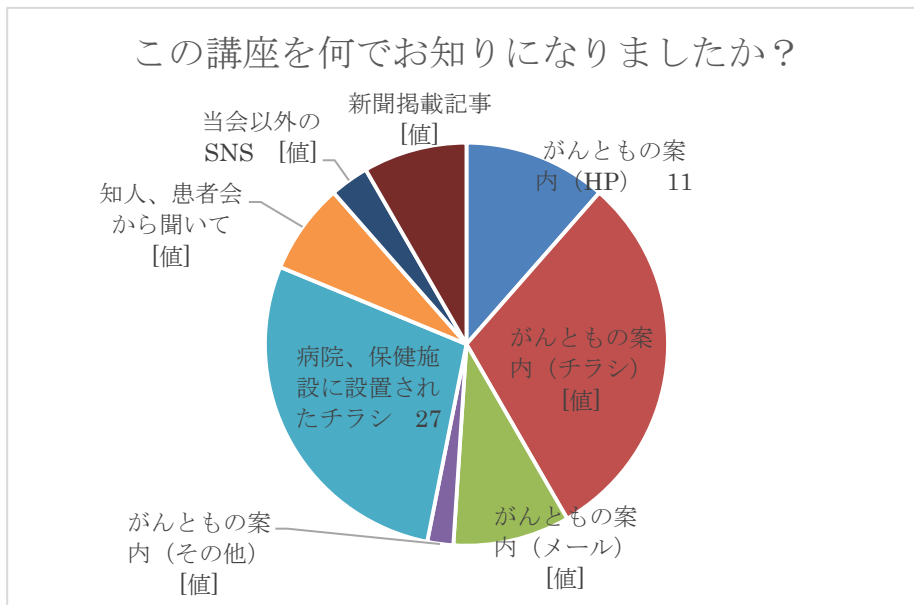
「心配があれば、一人で悩まず、だれかと共有することが大切。つらい、しんどいということを口に出して言っても大丈夫。身近な看護師にも気軽に声をかけてほしい」(大阪国際がんセンターがん看護専門看護師 北島惇子氏)。「だれかに話しているうちに問題点が整理されることもある。相談員をはじめ周囲の人に話を聴いてもらうことも大切」(大阪南医療センター患者支援室 萬谷和広室長)。

「薬の副作用のことはもちろん、それ以外のことで悩みや不安があれば聞いてほしい。だれと相談すればいいかをアドバイスすることもできる」(大阪国際がんセンター 金銅葉子副薬局長)。

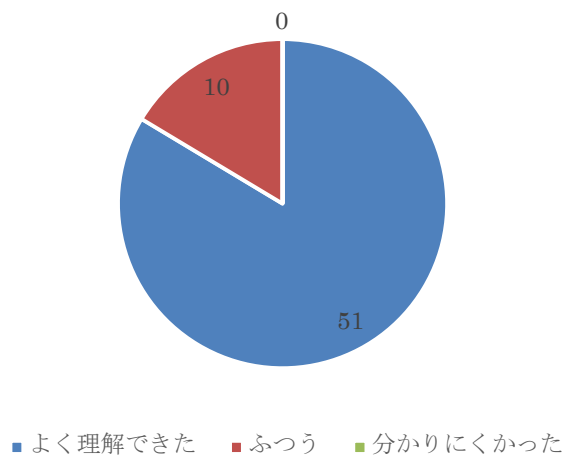
『コミュニケーションは双方の心がけから』

「相談内容には、治療や転院、あるいは主治医を変えてほしいという内容が多いが、背景には医療者とのコミュニケーションの問題があることが少なくない。双方の信頼関係が治療を進めるには大事。心配ごとがあるときは、がん相談支援センターなどの相談窓口を利用してほしい」(大阪国際がんセンターがん相談支援センター 池山晴人副センター長)。

<来場者アンケート集計結果>



質疑応答・意見交換の内容はいかがでしたか？



<来場者の感想より 抜粋>

◆講演の部

- ・コミュニケーションの重要性を改めて感じた。
- ・どの講師のお話も、それぞれの分野やテーマに合わせた詳しい内容がとても良かった。(同意見 5)
- ・相談支援のこと、チーム医療について役割や活動がよく分かった。(同意見 2)
- ・具体的な内容がとても分かりやすくていねいな話を有難うございます。(同意見 4)
- ・それぞれの専門職の方が患者や家族にとって何が良いかを考えながら、共働して叶う限りのことをしようとしていることがよく分かって感銘を受けた。(同意見 15)
- ・自分のがんと向き合い方が大事。そして十分に話しあうこと、まず話すことが治療に向き合うために必要だと思った。(同意見 3)
- ・“倫理的な判断”の難しさと重要性を教わった。(同意見 3)
- ・“医療の質を担保する”というお考えが医療従事者に広がっていくことを願う。
- ・“医療の不確実性”というお言葉が印象に残った。
- ・“どう生きたいのか”を医師や周囲の人につたえることが大事だと感じた。
- ・医者をはじめとする医療者の前では言うことをきく『良い患者』でないと、という思いを抱きがちだが、決してそうではないことがよく分かった。『良い患者』であるために、患者や家族は病気を知り勉強する、正しい情報を得ることが大事。(同意見 4)
- ・すべての医師や看護師が今日の講師の方々のように思ってくれるのだろうか... (同意見 3)
- ・医師以外にも治療の相談ができるスタッフが多いことを心強く感じた。(同意見 1)
- ・実際にお話のような対応をしてくれるか分からないが、とにかくやってみます !!!
- ・がんになるとどうしても先生に頼ってしまうが、医師も人間で医療も未完成。それを踏まえて自分や家族の命を自分で決める強さを持って生きたい。(同意見 2)
- ・遺族の思いを知ることができて良かった。このテーマでもっと深めて教えて欲しい。(同意見 3)
- ・“良いコミュニケーションを得るためのヒント”をもっと具体的に欲しかった。(同意見 1)
- ・家族とのコミュニケーションが後悔せず納得のいく治療を受ける鍵だと感じられた。(同意見 4)
- ・医療職として参加。患者の思いと医療者の関わり方を学べた。実践に活かしていきたい。
- ・資料を頂けて良く分かった。コミュニケーションについてのパンフレットは大変役に立つ。6

- ・患者はまだまだ主体性を持たず、受け身であることが圧倒的だと思う。

◆質疑応答・意見交換の部

- ・皆が悩んでいることが似ている、同じだと思い安心できた。
- ・異なる立場での悩みや思いが聞けた。
- ・コミュニケーションも十人十色だが、素直な心で話すことの大切さを再認識した。(同意見 3)
- ・悩みの解決に繋がる返答があり、役に立った。
- ・様々な人の思いがダイレクトに投げかけられた質問や意見、答えを出すのが難し質問にも何らかの答えを出そうとされた演者の皆様に敬意を表します。(同意見 5)
- ・ざっくばらんにお話を聴けて良かった。
- ・退院支援センターの存在と重要性を教わって感謝している。
- ・もう少し時間があれば良かった。
- ・悩んだらひとりで抱え込まず、まわりの人や相談支援センターに相談できるんだと気持ちが楽になった。
- ・がん患者である家族との医師の疎通に悩んでいた。ことばをえらび、相手の立場になって話すことを自覚した。(同意見 5)

<主催者 振り返り>

がん患者や家族と医療者間のより良いコミュニケーション促進のため、来場者には少し手でも役立つヒントを持ち帰ってもらいたいという当会会員の希望から企画に至った本公開講座であるが、来場者数やアンケート回答の内容から検証したところでは、その目的がある程度達成できたのではと考える。今後の課題としては、昨年より配布実績 1 万部を数え、講座の補完資料としても用いた当会制作パンフレット『手をつなぐ。伝えきること、わかりあうこと。～がん患者と医療者のより良いコミュニケーションをめざして』(別添)の手交や DL 配布を進めるなど、より広範囲にこの啓発活動を続けていく。

以上